

令和元年度第 1 回墨田区介護保険事業運営協議会サービス部会報告

- 1 日 時 平成 3 1 年 7 月 1 8 日 (木) 午後 2 時 3 0 分から (午後 3 時 3 5 分終了)
- 2 場 所 区役所 1 2 階 1 2 1 会議室
- 3 議事次第
- (1) 開会
- (2) 第 7 期介護保険事業計画 平成 3 0 年度進捗状況について【資料 1】
- (3) 墨田区高齢者福祉総合計画・第 8 期介護保険事業計画策定に向けた基礎調査について【資料 2】

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【資料 3】【資料 4】

在宅介護実態調査【資料 5】【資料 6】

介護サービス事業所調査【資料 7】【資料 8】

- (4) 閉会

4 配布資料

【資料 1】第 7 期介護保険事業 平成 3 0 年度事業実績

【資料 2】調査概要

【資料 3】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (案)

【資料 4】介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 (新旧対照表)

【資料 5】在宅介護実態調査 (案)

【資料 6】在宅介護実態調査 (新旧対照表)

【資料 7】介護サービス事業所調査 (案)

【資料 8】介護サービス事業所調査 (新旧対照表)

【資料 9】平成 30 年度第 2 回墨田区介護保険事業運営協議会サービス部会議事要旨

5 出席者

氏 名	所 属	出欠
成 玉恵	千葉県立保健医療大学	出席
山室 学	墨田区医師会	欠席
堀田 富士子	東京都リハビリテーション病院	出席
植竹 香苗	墨田区特別養護老人ホーム施設長会	出席
安藤 朝規	弁護士・墨田区法律相談員	出席
佐藤 令二	墨田区介護相談員	出席
濱田 康子	すみだケアマネジャー連絡会	出席

小谷 庸夫	墨田区訪問介護事業者連絡会	出席
佐藤 和信	第1号被保険者	出席
後藤 隆宏	墨田区福祉保健部長	出席

部会長 副部会長

事務局出席者	岩下 弘之	介護保険課長
	藤田 公德	高齢者福祉課長
	澤田 敦子	副参事（介護・医療連携調整担当）
	中山 裕子	介護保険課管理・計画担当主査
	曾根 昭治	介護保険課認定担当主査
	田中 雅美	介護保険課給付・事業者担当主査
	角田 知明	介護保険課調査担当主査
	内田 瑞穂	高齢者福祉課支援係長
	瀧澤 俊享	高齢者福祉課地域支援係長
	加藤 靖規	高齢者福祉課地域支援係主査
	鈴木 真理	高齢者福祉課相談係主査
	杉田 貴幸	介護保険課管理・計画担当主事
	立野 雄紀	介護保険課管理・計画担当主事
	鈴木 伸司	介護保険課管理・計画担当主事
	江上 寿恭	高齢者福祉課支援係主事
	井上 大輔	高齢者福祉課支援係主事

6 議事内容

(1) 第7期介護保険事業計画 平成30年度進捗状況について

事務局から、資料をもとに墨田区高齢者福祉総合計画・第7期介護保険事業計画の平成30年度の進捗状況について報告があった。

委員から、特養養護老人ホームの現在の入所待ち（待機者）が何名いるかの質問に対して、事務局から、平成31年3月末現在、待機者は409名いる。との説明があった。

(2) 墨田区高齢者福祉総合計画・第8期介護保険事業計画策定に向けた基礎調査について

事務局から、資料をもとに介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査及び介護サービス事業所調査の趣旨、調査対象者について説明があった。各調査案において、国の指定する必須項目については、まだ国から示されていないため、前回調査の内容を記載しており、区が独自で設定する項目案については、前回調査をベースに、区や高齢者支援総合センターの意見を反映させたものである旨、説明があった。

ア 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

事務局から、日常生活圏域ニーズ調査の調査項目案が示され、新旧対照表に基づき、3年前に行われた当該調査との変更点について説明があった。

委員から、第11-(4)の設問について、「救急医療情報キット」を配布して、それを「持っているか、いないか」という質問になっているが、「実際に記入して活用しているか」という点について聞いた方がいいのではないかとの意見があり、事務局から、「ご意見を踏まえ、検討させていただく。」との回答があった。

委員から、第8の設問において、入浴のことを主に聞いているが、なぜ入浴だけ聞いているのかとの質問があり、事務局から、「高齢者支援総合センター等から、区民の入浴に関する関心が高いという話があり、入浴に特化して設問項目を設けたとの回答があった。

委員から、アンケートの集計結果のフィードバックはどのように行われるか、また、集約結果を見たアンケート回答者から、区が今後どういうアクションを取るのか問い合わせを受けたことはあるかとの質問があり、事務局から、「区として高齢者福祉施策を行うにあたり、高齢者福祉総合計画及び介護保険事業計画に反映している。アンケート結果を冊子にまとめて配布し、区HPにおいてもアンケート結果を公開しているが、問い合わせがあったことはないとの回答があった。

委員から、第12-(13)の設問について、自動車の免許の取得や返納状況の内容だが、どういう事業に繋がるのかとの意見があり、事務局から、「現状把握を行い、移動についての代替手段の確保について、多くのニーズがあるという場合は、生活支援体制整備事業での新たな施策の展開も含め、地域にある資源を活用した新たな仕組み作りを検討していくとの回答があった。

委員から、第5-(1)(2)(3)の設問において、地域活動への参加率が非常に低いため、どうして参加しないのかという理由や、どうすれば参加するようになるのか、という部分についても聞いていただきたいとの意見があり、事務局から、「国の指定する設問項目なので、どこまで調整できるかは検討しなければならないが、区の独自項目での質問部分で対応等を検討させていただくとの回答があった。

委員から、第8期の介護保険事業計画に利用するという点、HPに公開することを調査表の説明文にいれた方が良いとの意見があり、事務局からは、「前向きに検討させていただくとの回答があった。

委員から、第9-(7)の設問において、選択肢が「ある、ない」しかないが、認知症サポーター養成講座を「知らない、聞いたことがない」という方もいらっしゃると思うので、そのような項目を入れても良いのではないかとの意見があり、事務局から、「前向きに検討させていただくとの説明があった。

委員から、第10-(2)の設問の文章がわかりにくいとの意見があり、事務局から、「内部で検討させていただくとの説明があった。

イ 在宅介護実態調査

事務局から、在宅介護実態調査項目案が示され、新旧対照表に基づき、3年前に行われた当該調査との変更点について説明があった。

委員から、問 17 - の設問において、希望する医療を誰に伝えているのかを聞く目的は何かとの質問に対して、事務局から、' 人生会議において、希望する医療を誰に、どのような方法で、繰り返し伝えていくということが重要とされており、設問を通じて区民の方に知っていただくとともに、区民の現状を把握するためのものである。この設問については、もう一度内容を検討させていただくの回答があった。

ウ 介護サービス事業所調査

事務局から、介護サービス事業所調査項目案が示され、新旧対照表に基づき、3年前に行われた当該調査との変更点について説明があった。

委員から、問 20 の設問において、医療と介護の連携手段について、「サービス担当者会議」と「カンファレンス」のみを挙げている。多様な連携の仕方があると考えられることから、どのように、どんなものを使って連携しているのかという問いかけにはいかがかとの意見に対して、事務局から、' 検討させていただくとの回答があった。

委員から、問 5 の設問において、施設によっては長期に人が不足しているところも見受けられるため、どのくらいの期間不足しているのかについても調査すると良いと思うとの意見に対して、事務局から、' 不足している期間について具体的に問うとの回答があった。

委員から、問 5 の設問において、職員の不足とは何に対しての不足なのか、基準に対する不足か、施設で考える適切な人数に対する不足なのかが非常に抽象的であるため、捉え方によって数字が大きく変わってしまうとの意見に対して、事務局から、' 不足という部分については、人員基準を満たしている前提での設問であるが、明確ではないとご指摘をいただいたので、検討して修正をするとの回答があった。

委員から、問 6 の設問において、求人媒体を使うことでどれだけの費用がかかっているかについても確認してほしいとの意見に対して、事務局から、' 費用については、聞き方等を含めて検討していくとの回答があった。

委員から、在宅介護実態調査及び介護サービス事業所調査の集計結果についても、HP等で公開されるのかとの意見に対して、事務局から、' 在宅介護実態調査については、ニーズ調査と同様にHPで公開しているが、介護サービス事業所調査については、公開は行っていない。との回答があった。これに対し、委員からアンケート調査の結果により、事業所が業務の改善を図ったり、情報を共有することができる。事業所への結果報告会という形でも良いので検討いただきたいとの意見があり、事務局から' 検討するとの回答があった。

委員から、個人情報の取り扱いが現場に任せられており、厳密に扱われていないケースがあると聞いているので、設問に追加していただきたいとの意見に対して、事務局から、' 個人情報の設問を新設するかどうかについて、検討させていただくとの意見があった。